

2023年7月2日

「この信仰のゆえに」

ヘブライ人への手紙 11:1-2

竹島 敏牧師

「信仰とは望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。昔の人たちはこの信仰のゆえに神に認められました。」この言葉は、私たち小石川白山教会に与えられた今年度の主題聖句でもあります。まずここで言われている事は、しっかりと希望をもって生きること、望んでいる事柄を確信せよと命じられている、ということです。私たちが自分の人生に抱く様々な希望は、思いがけない苦難をくぐりぬける中で練られ、また磨き上げられて少しずつ神の御心に適ったものへと導かれ、次第に確固としたものになっていくものです。つまり、揺るがされることのない確固とした希望とは、私たち人間がはじめから持っているものではなく、神がしっかりと握りしめてくださっているものなのです。そして、私たちの目には具体的な先の見通しが見えていなくとも、神は先まで見据えておられ、私たちに先立って働いてくださっていて、今、私たちに必要な一步一步の歩みを示してくださっています。だから自分の道を神にゆだねて、示された一步一步を踏みしめて歩むことが出来る、それが神と共に歩むということなのです。そしてそれが、「昔の人たちはこの信仰のゆえに神に認められました」と聖書が告げる信仰なのです。

教会は誠実な生き方を志すが故に、様々な苦難を背負わざるをえなかった人達が共に集い、み言葉に与る「苦難の共同体」です。この共同体においてこそ私たちは、真実の安らぎを得て希望を与えられ、新たな一週間を歩むことが出来ます。今日も私たちは聖書に記されている約束の言葉、主イエスの愛ある真実の言葉を身につけて、この世の流れに抗い神の国の流れに従って、それぞれの場へと遣わされてゆくのです。